

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 千葉県立千葉東高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}

☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☒ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒264-0028

千葉県千葉市稲毛区轟町1-18-52

E-mail n.tchbn@chiba-c.ed.jp

Website https://cms1.chiba-c.ed.jp/chibahigashi-h/

幼児児童生徒数 男子 508名 女子 587名 合計 1095名

幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、2013年よりユネスコスクールに登録しており、これまで国際理解教育や千葉大学との連携を中心に活動してきた。また、学外では生徒達が日々の教室での学習を超えた学びを得るために、県内他ユネスコスクール校との情報交換や共同学習を積極的に行ってきた。

本年からは千葉県高等学校教育研究会ESD部会に所属し、部会にて主導されるESD教育の取り組みにも積極的に生徒を送り出している。実質的な学校でのESDの取り組みはまだ少ないが、今後授業や千葉大学との連携などを通して本校独自のESDの実践が行われていくよう努力したい。

本年の取り組みの具体例として、①国際理解教育 ②道徳教育 ③理数教育 ④進路教育 を軸に行われてきた。

- ① 国際理解教育…異文化理解、英語学習の動機付け、近隣高校や大学との連携、発信力育成のため
- ・ 8月 ACCU高校生カンボジアスタディツアーへの参加
(3年生1名参加)
 - ・ 8月 第1回全国高校教育模擬国連大会参加(1年生2名)
 - ・ 9月 ドイツ人留学生受け入れ(10ヶ月間、アユサインターナショナル)
 - ・ 11月 JENESYS 中国高校生短期招聘事業
 - ・ 12月 グローバル人材プロジェクト(千葉大学留学生との交流会)
 - ・ 12月 福島県ブリティッシュヒルズ英国疑似体験プログラム(2泊3日)
 - ・ 2月 千葉大学教育学部ESD事業主催「人間力を育む千葉ESDの地域展開」成果発表会(生徒2名によるポスタープレゼンテーション)
 - ・ 3月 国際交流プログラム(米国・豪州でのホームステイ)
- ② 道徳教育…発信力育成、自己理解、他者理解のため
- ・ 総合的な学習の時間でのパネルディスカッションの実施(1学年)
 - ・ 道徳教材を使った道徳教育(1学年)
 - ・ 小論文指導、外部添削(1, 2学年)
 - ・ 書きそんじハガキキャンペーン実施(全学年、教員)
- ③ 理数教育
- ・ 東雲研究会…有志の生徒や教員で様々な講座やセミナーに参加し、理数に関する各々の研究テーマについて調べまとめている。
 - ・ 千葉大学国際研究発表会(次世代スキップアッププログラム)での英語でのポスター発表
 - ・ 千葉サイエンススクールネット参加
 - ・ 中高生の科学研究実践活動推進プログラム参加(JST 事業)
- ④ 進路教育
- ・ 各種インターンシップ(生命医療の世界、司法の世界、幼稚園研修)
…現地での実習に加えて事前・事後レポートを作成する。
 - ・ 職業体験(看護、保育など)、セミナー
- ⑤ 近隣大学との連携
- ・ 基礎教養講座…大学で開講する授業を半年間受講して、単位を認定してもらえる。千葉大学教育学部基礎教養講座 千葉大学教育学部の教員によるのべ14回の出張講義。
 - ・ High School on Campus(HOC)への参加…千葉大学との高大連携授業では、様々なプログラムが用意されていますが、本校の生徒はフランス語、スペイン語、ドイツ語等、他国の言語や文化を学びながら自国の理解にも役立てています。

以下、今年度の取り組みのうちいくつかの写真を抜粋して添付いたします。

資料① 2017/6/17 東京大学薬学講座

昨年度に引き続き6月17日(土)、畑町にある東京大学薬学系研究科附属薬用植物園に伺い、見学と実習を行ってきました。参加生徒は2年生1名、1年生9名でした。この講座のために栽培して下さった薄荷(ハッカ)の葉を自分たちで収穫、この葉からメントールを抽出しました。盛り沢山の内容で、普段できない経験ができ充実した1日となりました。



▲講師の折原先生の講義



▲植物園内の見学



(第2回は7月22日(土) 東京大学本郷キャンパスの研究室での実習を実施)

資料② 2017/7/30 第7回SSネット サイエンススクールフェスティバル2017

県内から多くの高校が参加する高校生による科学の祭典が千葉工業大学で開催され、本校からも物理部・化学部・生物部・地学部の生徒が出展しました。訪れた小中学生に一生懸命説明しながら、高校生もしっかりと楽しめたようで、充実の一日になりました。

▼【物理部：ピタゴラ装置】



【化学部：紫外線チェックシートを作ろう&クロマトで朝顔を描こう】▲

▼【生物部：感覚の不思議】



【地学部：小さな地層を観察しよう&化石のレプリカを作ろう】▲

資料③ 2017/7/25 東京歯科大学にインターンシップ

放射線医学研究所、東京歯科大学の2日間の生命・医療の世界のインターンシップを通して、生徒たちは、この先の進路や将来を考える良い機会になったようです。



資料④ 2017/11/13「JENESYS2.0」2017年度中国高校生訪日団の来校

このプログラムでは「社会福祉」というテーマで中国の高校生26名が団長・引率・通訳兼コーディネーターとともに日本を訪れました。

本校では、午前中は授業を体験し、それぞれ芸術や体育、数学、英語の授業に参加し、本校生徒と一緒に活動しながら互いに英語で伝え合おうとする姿が見られました。昼食のあと、「福祉」というテーマにちなんで、本校JRCの部員にプレゼンテーションをしてもらいました。午後は中国の高校生が各グループに分かれ、英語の授業でプレゼンテーションをしました。最後に歓迎パーティー、歓迎セレモニーをおこない、この交流会は終了しました。生徒たちは近隣国である中国を知り、同年代と交流する良い機会となったようです。

▼授業体験



▼JRC 同好会プレゼンテーション



中国高校生によるプレゼンテーション▲

資料⑤ 2018/11/27 平成29年度基礎教養講座の修了証授与式



資料⑥ 2017/12/18 千葉大学留学生5名との交流会(グローバル人材プロジェクト)

本校生徒ならびに千葉北高校、土気高校、磯辺高校から参加希望のあった生徒が9名来校し、総勢91名が各グループに分かれて交流しました。



▲「インドネシアの昔話」



▲「メキシコの国旗の由来」「フォークダンス」▲「ジンバブエの歴史」





▲「タイのお祭りソングラン」「フィンガーネイルダンス」

▲「ブータンの文化紹介」

資料⑦ 2017/12/25 JRC 同好会による近隣幼稚園でのクリスマスボランティア



資料⑧ 2018/2/18 第3回国際研究発表会（千葉大学との連携）

午前中はすべて英語によるポスター発表で、本校からも5件が参加しました。

「The deliciousness of NATTO（納豆の秘密）」化学部

「Extreme Weather Events」ユネスコ

「Secret of black ink pen ～Black ink pen is colorful～（黒色ペンの秘密）」化学部

「Panel Discussion」ユネスコ

「The effect of applying varnish on wood(ニスの効果)」化学部

〔研究発表の様子〕



〔研究発表の様子〕



研究発表のあとは、県内だけではなく都内の高校性や千葉大学留学生の方々とのグループワークが開催されました。テーマは「Global Warming（地球温暖化）」で大いに盛り上がりました。

〔グループワークの様子〕



資料⑨ 2018/3/15～24(豪), 26(米) 国際交流プログラム



▲ホストファミリー



▲現地校にて



▲プレゼンテーション



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
節句 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

東雲ファイル（総合学習の時間用に学校独自で作成したファイル）、道徳教材、小論文教材

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

保健体育、家庭科の授業にてESDについて学習しているほか、英語ではディベートによるグループ活動を行っている。他教科でも積極的にグループ活動を行い、生徒同士で考える時間を設けている。

特に総合的な学習の時間では、1年次にパネルディスカッションを実施し、ESD教育に大切な自分の意見を伝え、他者の意見を聞き、全体の意見をまとめる力を育成している。その他、2年次には小論文指導で読解力、記述力、思考力育成に力を入れている。それぞれの指導内容やワークシートは、本校で作成している東雲ファイルで統一しており、どの教員でも実施が可能な形式が決められている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

担当は国際教育部にて行われている。生徒会部活動や委員会は未だ発足していないが、組織的に活動するため、毎年4月にユネスコスクールの活動に参加する生徒を集めるための勧誘活動を生徒達によって行っている。
また、内容によってE S Sの生徒や生徒会に声をかけている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

学校活動に対する評価は行っていない。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項 2-2 に対応

活動成果の報告・発信は、学校ホームページで行っており、生徒や保護者や外部の方も見られるようになっている。

その他、国際教育部にて年1回発行している国際教育新聞にて活動の概要や生徒や教員の感想についての記事を掲載している。写真などのデータも保管しており、生徒の調査書作成時などに役立っている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、E S D活動支援センター、E S Dコンソーシアムとの連携など）
（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

本校は千葉県高等学校教育研究会E S D部会に所属しており、千葉大学E S Dコンソーシアムとの連携を行っている。

また地域、介護施設、近隣保育所との交流を頻繁に行っている（七夕交流会、合同防災訓練、文化祭への招待、鈴虫交流会、クリスマス交流会、保育実習、障害者施設の行事への参加（JRC））。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

2013年のユネスコスクール認定以来、県内のユネスコスクールの高等学校との連携を続けており、今年度からはE S D部会にて県内小学校・中学校・高等学校や特別支援学校、千葉大学（SGU:スーパーグローバルユニバーシティ）と連携を行っている。

平成29年8月21日 千葉大学E S D研究会

平成29年11月15日（水）E S D教育研修会

平成29年11月25日（土）E S Dパスポート研究会

平成30年2月18日（日）千葉大学SGH成果報告会

目的…生徒の交流を重視しながら教員同士で各校の活動の情報を共有する。

成果…・県内高校や異校種との連携することができた。

- ・学校の枠を超えて生徒・職員同士のコミュニティができた。
- ・生徒がファシリテーターとして話し合いをする機会を持つことができた。
- ・各校の職員と各校の取り組みについて学ぶことができた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

ユネスコスクールの活動で他校や千葉大学との連携をする中で、生徒達は留学生（特にアジア）の方と話す機会を多く持つことができた。それによってその国の事情や文化を知り、国際教育や国際支援、海外での仕事に興味を持つようになり、生徒達の進路決定にも大きく影響を及ぼした。良い変化として、生徒達は将来の夢が明確になることで、大学進学の手前で見据えながら大学入試に望むことができ、また学習意欲が向上して成績の向上が見られ、最難関校に合格する生徒が複数名いた。

（3）平成30年度の活動計画（200～400字程度）

来年度も今年度同様、ESD部会の一員として他のユネスコスクールと連携するとともに、千葉大学との連携を進めたい。

また校内では①国際理解教育 ②道徳教育 ③理数教育 ④進路教育を軸に多岐に渡る活動を行っていききたい。

○ESD部会次年度の活動について

- 5月 役員会
- 6月 総会及び春期教員研修会
- 7月 役員会
- 8月 生徒向けESD研修会
- 11月 秋季教育研修会
- 1月 役員会
- 2月 生徒向け成果発表会